



皆様、明けましてお

めでとございます。

昨年大変にお世話になり、本当にありがとうございました。本年もしっかりと活動して参る所存です。

本年は奄美にとって、大事な節目を迎えます。奄美群島日本復帰60周年であり、来年度末の奄振法改正・延長に向けた取り組みも大詰めとなり、また国立公園の指定も行われる予定です。まさに新しい時代の奄美をつくるための岐路に立つ年といえ

ます。

奄美市議会としても、

また一議員としても、力を磨き発揮していかなくてはなりません。「どうすれば奄美は良くなるのか?」「奄美が力強く発展するためには何が必要なのか?」皆様とともに議論し、お知恵を集めて参りたいと思います。

努力なくして繁栄なし。皆様、ともに頑張っ

て参りましょう。ご指導のほど、よろしくお願ひ致します。

安田そうへい

### そうへいの 議会トピックス

直近の議会での決定事項や進捗状況についてお知らせします。

第4回定例会(12月議会)における主な議案等です。

- 一般会計補正予算第4号(9月末の台風17号による災害復旧)4.9億円と同第5号(衆院選挙事務)3400万円の報告(専決処分のため)
- 同第6号(小規模多機能型居宅介護事業所の開設準備経費助成、朝仁保育所老朽化による建て替え、生活保護扶助費増額、その他)2.3億円
- 国民健康保険事業・介護保険事業等7特別会計の補正予算
- 奄美大島選果場条例(古見方地区朝戸)
- 奄美市ひと・もの交流プラザ条例(笠利町節田)
- 指定管理者の指定(選果場、屋仁川駐車場、名瀬運動公園、太陽が丘等7件)
- 笠利・住用総合支所新庁舎建築の工事請負契約3件
- 低学年児童の通学バス代補助を求める陳情…不採択となりました。

### 奄振特別委員会について

奄振延長・提言特別委員会では近く議会としての提言をとりまとめ、奄美群島広域事務組合を通じて鹿児島県等に提出する予定です。

### 議会報告会について

2月7日(木)夜、笠利・名瀬・住用同時開催で議会報告会が行われます。詳細は追って市議会から発信がありますので、ご注目してお待ちください。

●国内の多くの地方議会と同様に、奄美市議会では年4回の定例会(3・6・9・12月)が開催されます。会期はそれぞれ1ヵ月程度。この「志通信」は定例会が終わる毎に作成し、市民の皆様へ情報発信して参ります。

●定例会が開催していないときも、必要に応じて臨時会やその時々的重要テーマを扱う特別委員会(予算・決算、その他)、議会の議事進行を決める議会運営委員会や全員協議会等が行われます。議員は皆様の代表として、常に活動しております。



そうへいの  
一般質問レポート



一般質問は志願制で行われ  
(限定 20 名)、取り扱う  
テーマも自由です。

議員が公の場で能動的に政策を提言  
できる、数少ない貴重な機会といえます。

今回の一般質問では、  
①生活保護、②スポーツ  
振興、③企業誘致につい  
て採り上げました。こ  
の 3 つのテーマに共通  
するのは、「奄美の経済  
や雇用の状況をいかに  
改善させていくか」と  
いうことです。以下に  
やりとりの詳細を記し  
ます。

①生活保護

【安田】本市の生活保護率は 7% を超え、全国でも突出した水準だが、市の見解は？

【行政】原因は地域経済の冷え込みや社会保障制度の仕組み等複雑に絡んでおり解決は容易でないと考えます。

【安田】短期的な改善のために、若い世帯が含まれる層への自立支援・就労支援が重要と考えるが、どう取り組んでいるのか？

【行政】就労支援相談員を配置し、ケースワーカーやハローワークとの連携強化により、一定の就労実績は上がっている。

【安田】中長期的には、市役所内の分野横断的

な取り組みにより、雇用対策を含めた地場産業を中心とする産業活性化策が必要ではないか？

【行政】全庁的に情報の連携・共有を図り、効果的な対策を講じたい。

生活保護の一番の課題は「働けるのに働けていない層」をどうするかということ。雇用環境を改善させつつ、自立支援のためのきめ細かな対応を望みます。



②スポーツ振興

【安田】横浜 DeNA ベイスターズ秋季キャンプ誘致の経済効果等をどう考えるか？

【行政】経済効果は 5 億円余りと試算。奄美の

PR・宣伝効果や子供たちへの技術的・精神的効果も大きい。施設も整備され、市民の競技力向上につながる。

【安田】三儀山運動公園の市民利用が制限されないような方策は実施できないか。

【行政】スポーツ合宿のため 10 月下旬から 3 月まで利用制限があるが、合宿中でも練習が休みの際は市民に開放できるように周知方法等体制を整えたい。

ベイスターズが奄美に来て 3 年目、成果を検証しつつ、地元にとっても球団にとってもプラスとなる施策を考えていきます。皆様とともに受け入れ機運を高めていきたいです。



10 月下旬～12 月の主な活動

- |                                |                                     |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| 10/21 古見方地区親睦体育大会              | 23 北海道からのお客様に奄美本島を案内                |
| 26 熊本県菊池市歓迎会@龍郷町               | 28 全員協議会 (12 月議会補正予算案の説明)、群島新元議員研修会 |
| 27 菊池市と龍郷町との友好都市調印式            | 29 大和村湯湾釜集落ムチモレ踊りに参加                |
| 28 笠利町体育祭                      |                                     |
| 31～11/6 選挙応援のため出張 (愛媛県上島町長選挙)  |                                     |
| 11/7 奄美市小中学校音楽発表会              | 12/1 活動報告会@四谷公民館                    |
| 7～8 松下政経塾 VTR 撮影対応             | 4 議会運営委員会                           |
| 9 横浜 DeNA ベイスターズ歓迎会            | 9 笠利町まちおこしフェスティバル                   |
| 10 商店街秋祭り見学                    | 10 平成 24 年第 4 回定例会開会                |
| 11 奄美市民体育祭                     | 11～13 一般質問 (13 日の 4 番目に登壇)          |
| 12 根源部-国直トンネルを市に要望 (大和村連合郷友会と) | 16 ※衆院選投開票                          |
| 13 企業朝礼にて活動報告                  | 17 本会議・総括質疑                         |
| 14 エコラリー奄美視察同行 (広島県議団と)        | 18、19 各委員会審査 (文教厚生委員会に所属)           |
| 16 奄振延長・提言特別委員会 ※衆議院解散         | 21 奄美群島日本復帰 60 周年連絡協議会              |
| 22 宇宿小学校公開研究会視察                | 25 奄美群島日本復帰記念の日                     |
|                                | 26 最終本会議・抽議会 (一般会計補正予算等議案 25 件を可決)  |
|                                | 27 国立公園指定に係る説明会                     |

企業誘致は奄美の経済・雇用活性化のためにも大事な事業ですが、全国の自治体間で過当競争が起っています。まずは奄美の良さを体感してもらうことが重要なので、このような取り組みを提案しました。



### ③企業誘致

【安田】企業誘致についての現在の成果や課題は？

【行政】企業誘致を促進させるための条例や情報通信産業へのその特例を整備し、5社の誘致を達成した。一朝一夕にはいかないが、継続して参りたい。  
【安田】企業誘致の成果を上げるためにも、まずは社員旅行や研修を誘致しては？

【行政】社員研修を含めて、来島の助成制度や情報通信企業対象のツアーを実施した。「奄美を知ってもらう」取り組みを続けたい。

その他、安田からの提案

★生活保護改善のための、全庁的（企画・産業振興・教育・福祉部門等）取り組み

●「就労支援相談員」を専門職として養成（キャリアアカウンセラー等の資格を活用）

●ベ이스ターズとの長期継続的交流を目指して、奄美と横浜との歴史の掘り起こし

●三儼山運動公園の利便性向上を図るため、施設予約におけるイン

ターネットの活用

●「奄美少年自然の家」を「奄美青少年自然の家」に格上げ（許可事項が増えるため）

○総括質疑で「指定管理者制度」の選定過程について議論しました。

総括質疑は、議案に対してのみ3度までの質疑応答ができます。今回は「指定管理者制度」について探り上げました。



委員会審査に先立って行われた総括質疑において、「指定管理者制度」の選定過程における透明性・公平性について、行政と議論しました。このことに関連する記事が12月24日・30日付

の地元新聞に掲載されました。行政には今後、民間活力をより良く生かす方向で、指定管理者制度の活用と、選定過程の透明性・公平性の確保を検討してほしいと望みます。

※「指定管理者制度」

公の施設の管理・運営を、株式会社やNPO法人等民間の団体にも包括的に代行させることができる制度。小泉政権時代の「公営組織の法人化・民営化」の一環として平成15年に始まり、奄美市は18年に導入。現在、大浜海浜公園、奄美振興会館、名瀬公民館、三儼山運動公園等30以上の施設で採用されています。

### そうへいからのお知らせ



●「出前活動報告会」を行います！

今回は定例の活動報告会を見送り、各地域・集落や企業・団体に出向いて活動報告をしていきます。お声を掛けて頂ければ、日程調整をした上で開催の可否を検討しますのでお気軽にご連絡ください。

よろしく  
お願いします！



●本チラシの「配布ボランティア」を募集しております！

本チラシは私自身をはじめ、有志のボランティアで配布しています。一人でも多くの皆様にお届けするため、ご賛同頂ける方にご協力をお願い致します。

●しーまブログ、ツイッター、フェイスブックでも活動情報発信中です！

※安田そうへい連絡先：

奄美市名瀬古田町5-7

電話：54-7621 / FAX：54-7620

Eメール：sohei@mskj.or.jp

## 昨

年末私は、松下政経塾在塾時代

にお世話になった親友の父親から一通の手紙を頂きました。その父親は、東日本大震災発生以降、度々被災地を訪れ、復興支援に尽力をされており、経験談や現地状況を詳細に伝えてくださいました。その内容に感銘を受け、一人でも多くの奄美の皆様にお知らせしたく、本人の了解を得て、ここに抜粋して紹介致します。

〔(前略) 昨年の三月十一日の東日本大震災以後、縁あって私は被災地を何度も訪れる機会を与えられました。震災直後は水・食糧・身の回りの品をト

ラックに積み込んで避難所を回り、支援物資も一通り行き渡った五月頃か

らは若者を募り瓦礫撤去や浸水家屋の清掃にと出向いて参りました。その間に現地・被災地で私が目にし耳にしたこと、それは「崇高なる東北人の姿」であり、「気高い日本人の心」でした。自分自身が被災し、家を流され、職を失い、家族の安否さえも不明なのに、避難所で率先して他の被災者の世話に動き回っていた人々。本当に堪えられない程に空腹のはずなのに、おにぎりを一個ずつしか受け取ろうとしなかった人達。ガツクリと肩を落としたお年寄りの背中をそっとさすりながら励ましていた高校生の男子。母親と妹の遺体を発見して収容してくれた自衛隊員に向かって深々と頭を

下げてお礼を言っていた小生の男の子。

(中略)

岩手県大槌町、ここは津波と直後の火災によって町がほとんど壊滅してしまっただけですが、この町の海に面した山の中腹にお寺がありました。このお寺も津波と火災により消失してしまっただけですが、このお寺に当時高校生だった跡取り息子がいました。地震発生時、自宅の寺にいた彼は直後に発令された津波警報を耳にすると、「津波が来っから高いとこさ逃げれ」と周囲に向かって叫びながら、当人は海沿いの町に向かって駆け下って行ったそうです。そして「津波が来っから逃げれ」と叫びながら町中を走り回ったそうです。現に彼

## 特集「親友の父からの手紙」

のその叫び声を聞いて初めて事態の切迫を認識して助かったという人が何人もいたそうです。

しかし、その跡取り息子の高校生は家族の元には還ってはいませんでした。今回の震災による死者・行方不明者約二万人の中には彼のような「英雄」が数多く含まれていました。普段は普通の父親、母親、若者、お姉さんが、どこにでもいる町のおじさんやおばさんが、危急の事態に直面した時、我が身を顧みずに同胞を救うために走り回り、そして津波に呑まれていったのでしよう。このような「市井の英雄達」が多くいたはずで

(中略)

私は二つの小さな小さな肩を抱き締めると黙って車に乗り込み、大槌町を後にしました。二人のお父さんもきっと「英雄」の一人だったのでしよう。地域の仲間を救うために走り回り、そしてついに津波に呑まれてしまったのでしよう。最後の瞬間に幼い我が子の無事を祈りつつ…。この間の様子を離れて見ていた私の仲間が言いました。「まるで家族のようでしたね」と。そうなんです、私達日本人は一つの大きな家族なのです。日本という国は一つの大きな家であり、家庭なのです。天皇陛下がお父さん、皇后陛下がお母さんの大きな家族なのです。だから千年に一度という自然災害に遭遇した時、助け合い、支え合い、譲り合い、助まし

合い、分け合って、乗り越えることが出来たのです。この列島に住む人々には太古の昔からこのようにして生き、そして死んでいったのです。(後略)



いろいろと考えさせられる手紙の内容です。私たちが奄美本島においても、22年の豪雨災害以降、毎年のように大規模な自然災害が起きています。日頃から防災に対する意識を強く持つとともに、地域の和、助け合いの輪を日常的に大事にしている、そのような温かみのある地域社会をつくっていききたいと考えております。